~里山を活かしての自然体験活動~

認定こども園 もみのき幼稚園・めだか園副園長 兵等弥生

★農園遊び

当園所有の農園では、カーゴネット、斜面登り、木登りなど、自然の地形を活かして活 動を行っています。カーゴネットでは、寝転がったり、ゆらゆらと揺れる感覚を楽しんで 体を委ねて遊ぶ姿が見られます。カーゴネットの上は不安定なので、体を支えるのが難し いのですが、転がりながらも自分の手足を使って登り降りを繰り返しすることで、体で覚 え、体幹が鍛えられてバランス感覚が育ちます。斜面登りでは、ロープを持って、足を踏 ん張りながら、手と足をどうやって使えば登れるか、頭で考えます。中にはロープを使わ ずに、木の根っこや土から出ている石に手をかけながら登る子どももいます。こうして試 行錯誤を繰り返しながら登り方を学んでいきます。斜面を登ることで自然と足腰が強くな り、転びにくくもなります。斜面の下から上まで自分の力で登り切った時には、達成感に 溢れ、自信につながると、やってみようという意欲につながっていきます。4・5歳児は、 木登りにも挑戦したり、遊び方もダイナミックになってきます。木登りをしながら、危険 予測もできるようになってきて、保育者が声を掛けなくても、子どもたちだけで気をつけ て遊ぶようになります。農園は自然物の宝庫なので、草花、小枝、木の実、木の葉、土、 小石など、そこらじゅうに落ちています。料理に見立てて、お皿やお鍋などの容器に入れ て、ままごと遊びを楽しむ姿も見られます。自然物を色々な物に見立てて遊ぶことで、想 像力が豊かになり、いつのまにか友だち同士の会話も弾み、コミュニケーション力も身に ついていきます。農園にはたくさんの生き物がいます。変化を繰り返して成長する昆虫の 姿に驚いたり、生き物を見たり、触れたり、捕まえることで、命というものを実感してい きます。そして、死んでしまって動かなくなった時に、死というものを感じさせ、『動かな くなって可哀想だね』『死んだら生き返らないね』などと問いかけながら、命の大切さや尊 さを伝えるようにしています。そして、農園では、主に 5 歳児が中心となって畑づくりを 行い、年間を通して色々な野菜を育てています。鍬を持って、土を耕して畝を作ることか ら始めるのですが、ほとんどの子どもたちが初体験で、保育者に援助してもらいながら、 鍬で畑を耕すことの難しさも体感していきます。今年は、きゅうり、なす、トマトを植え ました。苗や、種を植えて収穫するまでの生長過程を大切にし、世話をするとはどういう ことなのか?子どもたちに投げかけて考えさせたり、出てきた意見を、実際に取り入れて 行っていきます。思いや意見が出てこない時には、答えを伝えるのではなく、ヒントを与 えて、子どもたちからの意見や思いを引き出すような援助をしていきます。水をあげたり、 雑草が生えてくると草引きをしながら、野菜が育っていく様子を観察していきます。時間 をかけてようやく野菜が実り、収穫できた時にはうれしさもひとしおで、子どもたちも喜 んでいます。また、収穫した野菜を使って、クッキングをするなど、食育活動にもつなげ ています。

★田植え体験

行川地区では、現存する里山の地形を活かして田んぼでは、泥んこ遊びを楽しんだ後で、 田植えをしています。田植えは5歳児が行いますが、担任、フリーの職員の他にも、同じ グループ内のボランティアのお年寄りの方々や、保護者のボランティアの方々にもお手伝 いして頂いて行っています。稲の植え方を教えてもらうと、子どもたちは張り切って植え ていきます。植えた稲を倒さないように、踏まないように、それぞれが考えて行動してい る様子が見られます。そして、田んぼ全体を見渡しながら、植えられてない場所を見つけ ると、『あそこに植えよう!』と自然と子どもたち同士で声を掛け合いながら、協力し合っ て、植え終わった後は、やり切ったという達成感を味わい、自信に満ちあふれた表情を見 せていました。田植え後も、行川に遊びに行く度に、水を張った田んぼの中の稲の生長の 様子を観察していきます。そして、秋には親子で一緒に稲刈りを体験し、収穫します。鎌 など、ほとんど使ったことがない子どもたちは、最初は悪戦苦闘しますが、何回も繰り返 すうちにコツが分かると、人の手を借りずに自分だけの力でやりたいと、積極的に稲を刈 ろうとします。最初はなかなか上手く刈れずに、失敗しながら、何度も何度も挑戦します。 そして苦労して出来た瞬間は、嬉しさでいっぱいの笑顔を見せ、その喜びを伝えてきます。 周りの大人は、「すごいね!自分でできたね!」と共感し、その気持ちを受け止めるだけで いいのです。自分の気持ちを受け止めてもらった、という経験は、色々なことに挑戦する 気持ちや意欲を生み出し、成功体験が自信になり、自尊感情へとつながっていきます。そ して、東にして十分干した後に、脱穀をします。昨年は、脱穀やもみすりを自分たちの手 で体験してみました。脱穀して、もみすりした後に、精米し、そのお米を使って、昨年は 手巻き寿司を作って食べました。

★川遊び(ライフジャケット、アクアシューズ着用)

行川地区では、川遊びは、3歳児から体験します。水着もケガの予防のために、ラッシュガードタイプの物を着用し、ライフジャケットの着け方、アクアシューズの履き方から学んで練習していきます。まず、園のプールで実際に入って浮くことを試し、体験してから、川に遊びに行きます。川に行くと、プールと違い、川の底が見えないので、最初は怖がったり、川の水の冷たさに驚きます。でも、自分でゆっくり歩いて試し、『ここは足が着くから大丈夫!』と自分で体感して安心すると、子どもたちはどんどん積極的に川の中に進み、慣れてくると浮くことを楽しんだり、泳いだり、流れに乗って楽しむようになります。また、水生生物との出会いもあり、捕まえたり、観察して、楽しんでいます。

★登山体験

4・5 歳児になると、フィールドの範囲も拡がり、鷲尾山(標高 306m)、工石山(標高 1177m)への登山を行っています。鷲尾山は、自分たちが日頃出掛ける周辺や、高知市内を一望できる標高 306mの山で、なだらかな道があったり、急な坂道があったりと変化に富んでいます。子どもたちは散策しながら、木の実やきれいな葉っぱを見つけたり、色々な発見をして、友だちと感動体験をしています。















